

「希望の道 —認知症とともに生きる—」動画出演者



福田貞夫さん(北海道)

北海道札幌市の福田貞夫さんは二度にわたるくも膜下出血を克服。その後認知症と診断され、在宅生活が難しくなりグループホームに入居。現在は状態が安定したため自宅に戻り、入居時、お世話になったグループホームヘデイサービスで通う一方、公園で孫と遊んだり、買物に出かけたりと地域の生活を楽んでいます。持ち前のリーダーシップを発揮して施設でも地域でも頼れる存在として活躍しています。



及川昌秀さん(山形県)

山形県米沢市の及川昌秀さんは、若年性アルツハイマー型認知症と診断された後も「障がい福祉サービス事業所」で日々の仕事を続けています。市内に認知症カフェおれんじドア山形をオープン。認知症本人の交流の場を通じて、積極的に情報を発信するとともに新たな人々との出会いを楽しんでいます。



望月省吾さん(神奈川県)

長く医薬品メーカーに勤めていた藤沢市の望月省吾さん。趣味は、大学進学後、夢中になったマンドリン演奏。出向先のワイナリーでの経験を活かし、自ら参加している認知症当事者の会ではワイン講座を開催しています。



森 累美子さん(静岡県)

静岡県富士宮市で木製の介護用品をつくる「木工房いつでもゆめを」。元看護師の森累美子さんは、認知症と診断されたあと、こちらの工房ではたらきはじめました。夫の理解、そして自分らしくいることができる場所や人と出会いがあり毎日を前向きに楽しんでいます。



下坂 厚さん(京都府)

大手鮮魚店で働いていた下坂厚さんが若年性アルツハイマー型認知症と診断されたのは46歳のとき。現在は高齢者を支える仕事と趣味の写真撮影に生きがいを見い出し、充実した毎日を過ごしています。写真の腕前はプロ顔負け。当事者目線の情報を日々発信しています。



松本とよ子さん(鳥取県)

鳥取県鳥取市の松本とよ子さんは長年看護師をつとめてきました。認知症と診断された後もその経験を活かし、「おれんじカフェ」などで認知症本人の方たちの話に耳を傾けています。本人の視点が何より大切という松本さん。認知症になった体験を活かして、認知症の見方を変えていくことを第2の仕事にしています。



川原多喜子さん(鹿児島県)

鹿児島県で認知症と診断されてからも多くの人々に支えられながらひとり暮らしを続けている川原多喜子さん。小規模多機能サービスの通いではメール便配達の仕事を行い、施設の中でも率先して職員のお手伝いをするなど、地域の中での自分の役割を見つけて暮らしています。

「認知症とともに生きる希望宣言」

〈一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ〉

1 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。

2 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

3 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。

4 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。

5 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを、一緒につくっていきます。

認知症普及啓発事業

厚生労働省 www.mhlw.go.jp

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ www.jdwg.org

公益社団法人 認知症の人と家族の会 <https://www.alzheimer.or.jp/>

認知症当事者とともにつくるウェブメディア なかまある nakamaaru.asahi.com